

1. 第4回研究会の主なご意見

(1)事例集について

- コミュニケーションツールと体裁を合わせた方が、書き手が事例集を参考に記載することができ、コミュニケーションツールの普及に繋がると考えられる。
- 企業の魅力を明示的にアピールできるよう、事例集にも企業の魅力を記載する欄を設けるべき。

(2)中小企業の魅力に関する調査について

- 年収、年齢、居住地について、クロス分析を実施してほしい。特に年収については、首都圏と地方では水準が大きく異なる。
- ポータブルスキルについては、「全てのポータブルスキルを点数化する」「特に中核人材に必要なポータブルスキルを選定し、点数化する」の2つの方法で分析すべき。

(3)報告書目次案について

- モデル・メソッドの全体像は問題ないが、本研究会の成果である、「情報整理」「方向づけ」「施策の選択」について、より端的な文言で際立たせて頂きたい。また、ツールを含め、名称は再考すべき。名称については、本メソッドの特徴である5ステップが含まれていると良い。経営者を書いてみようと思わせることが重要である。
- 経営者向けと経営支援機関向けで文言は統一した方が良いので、ツールは経営者向けと位置づけ、経営支援者に対しては使い方マニュアルの中で「経営者とのコミュニケーション用にご活用ください」という趣旨を補足してはどうか。
- コミュニケーションツールのデザインを改善すべき。

(4)想定される課題について

- 普及の観点から、よろず支援機関やプロフェッショナル人材戦略拠点、金融機関等に対し活用を促してはどうか。
- ツールを利用して成功した事例を収集することが重要。仲介機関にツールを使用してもらい、ツールを改善しつつ事例を収集してもらう仕組みを構築すべき。
- 経営支援機関向け、経営者向けの研修があるとよい。
- 認知度を高めるため、商工会議所の会報誌等に掲載を依頼してはどうか。